

人生の

道しるべ

あなたの悩みに答えます

森本あんり

(国際基督教大学教授)

一九五六年、神奈川県生まれ、プリンストン神学大学院博士課程修了(P.H.D.)。二〇二二年四月より、東京女子大学学長に就任予定。著書に「反知性主義」(不寛容論)、「いずれも新選」(選)など。

写真 遠藤 宏



相談 オンライン講義に集中できない

私は都内の大学に通っており、いま二年生です。

コロナ禍でオンライン講義の機会がぐっと増えたのですが、正直、聴

講に身が入りません。

私はもともと、勉強が嫌いではありません。世の中のお金の流れに興味があって、経済学部に入りました。冊数はそんなに多くないのですが、一般的な大学生よりかは本を読

むほうだと思えます。
内容が面白い先生のリアル講義やゼミは楽しみに思うときもありません。ただ、オンライン講義は集中できないというか、緊張感がなくてほかのことをやりたくなります。
もちろん、コロナの感染対策とか大学への通学の手間が省けるとか、メリットは理解しているつもりです。ただ、私の場合は自宅と大学が近いので通学は苦ではないし、リアルの講義であれば、友達に会うこともできます。
先生の立場からすると、オンライン講義はやりやすいものなのでしょうか。オンライン講義に集中するコツはあるのか、教えてほしいです。
(東京都、二十代、男性)

回答

待ってました！ こういう質問は、自分の日常と近いので、お伝えしたいことが山のようにあります。

それも、普段から声を大にして言いたいことばかり。相手が誰でも構いません。文科省でも、教育専門家でも、学長や学部長でも。あまり熱くなりすぎないよう努めますが、まあ聞いてください。

最初にはつきり申し上げます。「聴講に身が入らない」のは、あなたのせいではありません。「オンライン講義に集中するコツ」なんて、あるかもしれませんが、そんなものはどうでもいい。学生がそんな努力をしなければ集中できない

授業、という出発点がそもそもおかしいのです。

「今日はどんな知的冒険ができるのだろう」と期待して来るのが大学の授業です。

あるいは、「たぶん退屈だろうな」と思って聞き始めたら、思いのほかエキサイティングで刺激を受けた、というのが大学の授業です。

「先生の立場からすると、オンライン講義はやりやすいものか」——もし「講義」をこちらから一方的にしゃべることと理解するなら、「やりやすい」と答える先生もいるでしょう。

でも、講義は本来つねに双方向です。たとえ先生がずっとしゃべっているとしても、学生たちが出す身体

的なシグナルに、いつも気を配っているからです。自分の話していることがうまく伝わっていないようだ、と感じたら、別のやり方をするとか、質問を向けてみるとか。

教室でのリアル講義なら、そういうことが可能です。でも、オンラインでは難しくなります。だから、自分でも授業をエンジョイしている先生なら「やりやすい」とは言わないだろうと思います。

だいたい、冗談を言って参加者がどんと沸いても、ミュートされた画面では何も聞こえません。それでは話すほうも聞くほうも、波に乗ることとはできないでしょう。脳科学の実験によると、オンラインでは脳波の同期がまったく起きないそうです。

ただし、「オンライン」にもいろいろあります。

まず、教員が事前に録画しておいたビデオを見るやつ。あれは最悪で、率直に申し上げて大学の授業に値しません。

おそらく、教員や大学にも多少の言い分はあるでしょう。大人数にも対応できる、時間を気にせずいつでも勉強できる、海外との時差があっても使える、何度でも復習できる、反転授業の予習にいいなど。

ブルシット！ どんなに有意義な中身でも、一方的に流れてくるだけなら、やがて集中が途切れてしまうのは当然です。

教員は、不特定多数の相手ではなく、「あなた」に話すのです。誰か

復や大量の基礎知識が必要なこともあるでしょう。

でもそれは、大学の授業という場の外でもできることです。授業は、それまでのあなたの常識や前提を揺さぶり、世界を別の角度から見る視点が開かれるときです。その場を共有する教員と学生でつくり上げる、そのときだけの固有な空間です。

つまり、授業は「出来事」です。いつも一回限りです。だからそれは、現場に参加した人だけが共有できるのです。

どんなに面白い授業でも、録画して見直したら、それは冷めたビデオです。そんなものがおいしいはずがありません。

あなたにも経験がありませんか。

いつ聞いてもわかるように話すのではなく、「いまのあなた」がわかるように話すのです。

録画でなくライブ配信なら、事情はだいぶ変わります。教室での講義が面白い先生なら、たぶん画面上でもかなり面白いはずです。

オンラインになったら突然つまらなくなつた、なんていう先生はいません。普段でも努力している先生なら、オンラインになつても工夫をするからです。それでも、画面に参加者の顔が並んでいるだけだと、限界があります。

このあたりは、学生側から貢献できることもあるでしょう。反応を返したり、質問や提案をしたり。よい先生なら、きつと歓迎してくれま

授業で一生懸命ノートを取つたのに、後で見返したら、何のことだったのかさっぱり思い出せない……。

なぜそうなるのか。授業の空間には、スピリットが満ちているからです。言霊ことばまが飛び交かっているからです。そのバイブレーションをつかまえて文字に閉じ込めることはできません。だから古今東西の宗教伝統は、「文字は殺し、霊は生かす」と教えてきたのです。

最後に、読書家のあなたに一冊だけお薦め。経済学の周辺では次々に面白い本が出ていますが、もしまだお読みでなかったら、少し前（二〇一五年）に出たトーマス・セドラチエク著『善と悪の経済学』を試してみてください。

す。他の先生の授業で有効だった試みを紹介するか。授業評価も活用しましょう。学科長や学部長に伝えるのもいい。同じクラスの学生と一緒にだと効果的です。

授業には言霊が飛び交っている

私が学生から学んだことの一つは、休み時間の意義です。

教室だと、授業の合間に、学生同士で、あるいは気を緩めた教員をつかまえて、ちょっとした雑談をしましょう。それがじつはとても意義があるのです。みんなの前では聞けなかつた質問も気軽にできたりします。オンラインでもそれができます。いいですね。

もちろん、分野によっては単純反

投稿要領

日常の相談事や悩みについて、400字詰め原稿用紙1枚程度で、住所、氏名、年齢、職業を記入のうえ（掲載は匿名）、ご送付ください。掲載分には、図書カードを進呈致します。原稿は、内容を損なわない範囲で、一部を修整させていただく場合がございます。原稿は返却できません。掲載分は電子メディアや出版物などで公開する場合がございます。あらかじめご了承ください。

宛先

〒135-8137 東京都江東区豊洲5-6-52 NBF豊洲キャナルフロント11階

株式会社PHP研究所 Voice編集部 人生相談係

メールでも投稿を受け付けております。

voice@php.co.jp